

第 11 回（2 月号） ミーティングで存在感を出す秘訣

今月は社内ミーティングがテーマでした。社内・グループ協議は顧客交渉に比べれば気持ちは多少楽かもしれませんが、内輪とはいっても自分の存在価値をしっかりと示していかなければなりません。

participate の意味するところ

「意見を言わないと賛成したと思われてしまう。」外国人との会議に臨むときの心得としてよく言われることです。

私がロンドンに赴任して間もない頃、社内の定例会議に出席することになったのですが、あるときその通知が来ませんでした。主催者のイギリス人に聞いたところ、思いも寄らぬコメントが返ってきました。You're not interested, are you? (興味ないんだろう?) そして畳みかけるように You need to participate in the discussion. (もっと議論に参加しないと)

言われてみれば、会議の流れを追うことに集中し、発言は日本人の上司に任せていたことは事実です。発言することを約束して出席を許されましたが、発言しないことは、賛成する・しないという以前に、興味がないと思われることを学びました。participate (参加する) は、単に attend (出席する) ではなく contribute (貢献する) という意味なのです。

会議に contribute する方法

さて、ミーティングに貢献しろ! というのは簡単ですが、活発な議論が行われている中でタイミングよく発言するのは簡単ではありません。サバイバルのコツを考えてみましょう。

ぶっつけ本番は無謀

ミーティングはあらかじめ agenda (議題) が決まっていますから、会議のフローはだいたい想定内のはず。どんな流れになって、自分はどのタイミングでどんな発言をするのか、事前に考えておくことです。

あくまでロジカルに、結論、その根拠・理由、具体例といった流れを考えます。ロジックは一通りではないので、それがすんなり受け入れられるとは限り

ません。大切なのは、自分の発言に対し、どのような反論が待ち受けているかを予測し、準備しておくこと。ボールを持った途端に相手が襲ってくるラグビーのように、意見を述べた直後に猛烈な反論に合うことも想定内です。

コメントを用意するだけでなく、実際に声に出して発言する練習をしてみてください。舞台に立つのにセリフの練習をするイメージですね。発言するときの表情、視線、ジェスチャーまでイメージしておくのです。そうすると自信を持って発言することができ、同じことを言うのでも印象が違ってきます。何事も“備えれば憂いなし”。慌てずに堂々と意見を述べる準備をしきましょう。

これだけは絶対に言う！という意気込み

相手に対する反論も含め、準備をしてミーティングに臨んでも、その意見を述べるタイミングがなかなかやってこないことがあります。言おうと思っていた瞬間に次の話題に移ってしまうことも日常茶飯事です。対処方法は、何としても意見を述べることに尽きます。

Sorry to interrupt, but...と言って相手をさえぎる。Can I just finish my sentence? といってさえぎられたときは自分の言いたいことを最後まで言う。もしさえぎられてしまったときは、Like I was saying earlier, I believe...と言って中断される以前に戻って続ける。このくらいの意気込みを持ちましょう。

何か言おうと思っているうちに次の話題に移りそうになった瞬間には、Sorry, Davidなどとファシリテーターの名前を呼んだうえで、Before we move onto the next point,と言って話を引き戻しても構いません。

こう偉そうにアドバイスしている私も、面倒くさくなって発言を見送ることがあります。そういうときに限って、ちゃんと言っておけばよかったと後悔するものですね。手強い参加者が揃っているときなどは、会議のファシリテーターに、発言の機会を与えてもらうよう事前に頼んでおくという奥の手もあります。

相づち作戦で存在感

では、基本的に賛成、言うべきことも特段ない、という状況の場合は、どう対応したらいいのでしょうか。黙っている＝興味がない、と思われぬように、

ときどきコメントをはさむことです。いい意見だと思ったら Emily, that's a good idea.とか、That's a good point.などとポジティブにコメントしましょう。ただ、それだけだとちょっと寂しいので、なぜそうなのか、その理由をしっかりと述べるといいですね。I think it's a great idea because....とかI also think...または That way, we can...などと続けると、スムーズな流れになります。ちょっとしたコメントをはさむだけで、前向きに participate, contribute している印象を与えることができます。

外国人とのミーティングは、単なる報告で終わることはあまりありません。戦略を練ったり、問題を解決したり、何かを決定したりするためのものです。相手の意見をしっかりと聞き、聞き取れなければ迷わず発言内容を確認する。そして、自分の意見を述べる。これを地道に繰り返していけば、いつの間にか“相手から意見を求められる自分”に気づくことでしょう。